

● 学校飼育動物飼育支援活動を始めました

そこで「学校飼育動物飼育支援活動」を稲沢市内の獣医師たちと平成18年から始めました。動物たち、子供たちのために学校と協力してさまざまな活動しております。

- ・市内全小学校の学校訪問による飼育環境などの視察と指導
- ・自然繁殖を防ぐための避妊・去勢手術
- ・鳥インフルエンザなどの動物から感染する病気の対策と予防
- ・「動物ふれあい教室」などの公演・講習会の出前講座

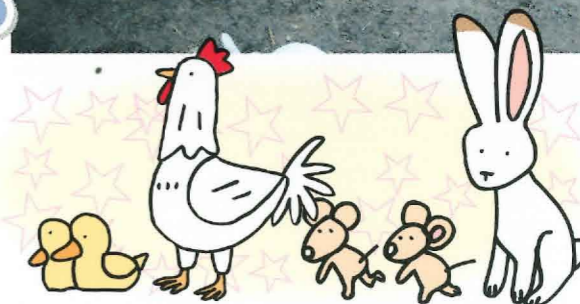
まだまだ十分な支援ができず、子供に動物を触らせない学校や、ましてや動物を飼うのを辞めた学校もあります。これからは地域の方々やPTAの方々とは協力して一番身近な動物たちである「学校飼育動物」を守っていきたいと思っております。

● おわりに

今までは、学校に行く機会があってもそこに動物がいることはあまり気付かなかったと思います。しかし、小屋の中には皆さんが飼っている動物たちと同じ命があります。今度学校に行く機会がありましたら、その動物たちを一目見て声をかけてあげてください。



学校で飼っている動物を知っていますか？



● 学校飼育動物について

皆さんも小学校に通っていたとき学校に動物がいたことを覚えているでしょうか？全国の学校で、性格が穏やかで世話がしやすく子供と直接触れることができる動物とのことで「ウサギ」や「モルモット」、「ハムスター」、「チャボ」などが飼育されています。

文部科学省は、子供たちが心の豊かさ、いのちの大切さを学ぶために学校で動物を飼育することを推奨しております。動物が子供たちに与える影響は、見ることも触れることもそして飼育することで人格形成にまで及ぶほど計り知れないものがあります。しかし、学校が「学校飼育動物」飼育を一任されているため個々の学校により、飼育している動物の種類も数も環境も様々です。飼育担当の先生や学校の方針で動物たちの飼育形態や健康状態なども千差万別です。えさ代や環境整備費などは十分とはいえず、ましてや病気にかかったときの治療費などありません。また、メディアによる動物由来の病気の過剰な報道や各自治体の経費削減、鳥インフルエンザの影響で学校飼育動物の周囲は必ずしも良いとは言えません。

